

# IAAL

Institute for Assistance of Academic Libraries

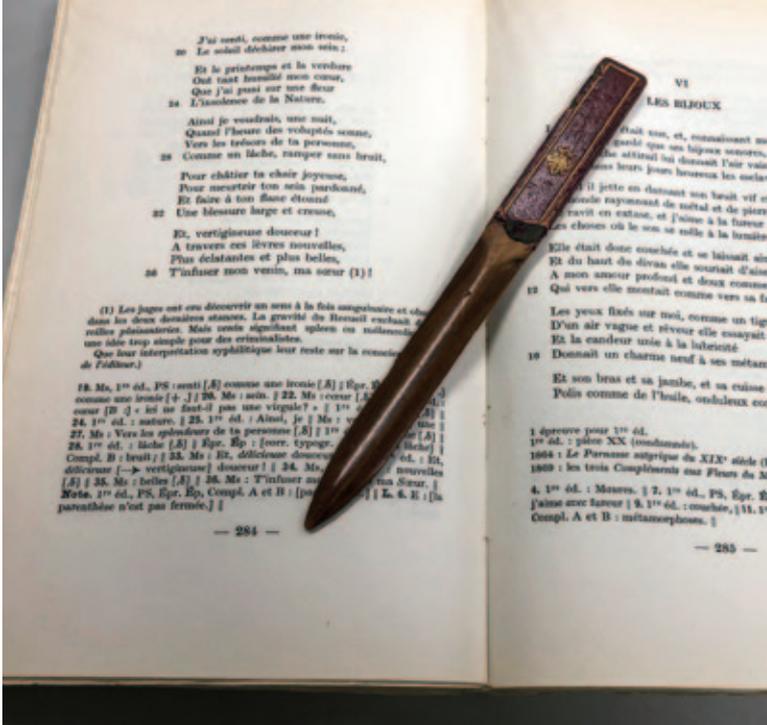
## ニュースレター

アイアールニュースレター

DEC. 2023

復刊号

No.15



### 目次

IAALニュースレター復刊によせて 「文献型学習支援」から「新しい学びの支援」へ :「アクティブ・ラーニング」の再見直し …………… 1	大学図書館の学生用図書 …………… 3
IAALの軌跡 …………… 2	連携のための人的ネットワーク作りを …………… 4
	RDAを学ぼう …………… 5
	IAAL事務局通信…………… 7

## IAALニュースレター 復刊によせて

NPO法人大学図書館支援機構 理事長  
岡田 智佳子

大学図書館支援機構（以下、IAAL）は、2007年に東京都の認証を受け設立した特定非営利活動法人（NPO法人）です。「大学図書館及びその利用者に対して、研修及び業務支援に関する事業を行い、大学図書館の継続的発展を通して学術研究教育に寄与すること」をミッションとした活動を続け、今年7月で17年目を迎えました。

この間の大きな出来事といえば、コロナ禍です。IAALの活動にも大きな影響をもたらし、メイン事業の一つであった「IAAL大学図書館業務実務能力認定試験」を見直さざるを得ず、認定試験は2022年に終了いたしました。しかしながら、認定試験が果たしていた「図書館現場で働く人の能力を客観的に評価し、待遇改善の一助にする」という目的は、今後もIAALが取りこむべきものであり、新たな「研修を中心とした認定制度」として生まれ変わる準備を進めています。

まずは、IAALの今後の活動方針の基盤である「IAAL人材育成方針（仮称）」を策定します。また、YouTubeやLMS（Learning Management System）を利用した、皆様にとってより利用しやすい研修環境の提供も行っております。そして、研修制度が整った後に「IAAL人材育成方針（仮称）」に基づく認証制度を構築し運営いたします。

この変化に対応するために、理事会では2023年度、理事長、副理事長が交代し新たな理事も加わりました。

その新生IAALの最初の一歩として、14号で休刊していた本ニュースレターを約10年ぶりに復刊いたします。

IAALにしかできない社会貢献とは何であるかを常に問い続けながら、これからも活動を続けて参ります。引き続きよろしくお願ひ致します。

# 「文献型学習支援」から「新しい学びの支援」へ ：「アクティブ・ラーニング」の再見直し

IAAL副理事長 米澤 誠

## ラーニング・コモンズからはじまった 大学図書館の学習支援

わが国の大学図書館におけるラーニング・コモンズの導入と普及は、「大学生の学習環境の改善」という文脈での新たな試みであったわけだが、大学における大学図書館の学習支援を見直す大きな機会ともなったと考えている。私の主たる関心も実は「大学生の学習に図書館が如何に貢献できるか」という点にあったのであるが、その意図はラーニング・コモンズというある意味華々しいムーブメントの陰に隠れたものとなってしまっていたかも知れない。

## 文献型学習支援における図書館の 役割の再認知とその活動の普及

大学図書館のラーニング・コモンズ主導に伴い、多くの大学で、文献型の学習支援、すなわち文献探索による情報収集と適切な情報の利用によるライティング技術の向上という面での学習支援は一定の成果を挙げたと言ってよいのではないだろうか。

わが国の大学図書館における以上の文献型学習支援（文献探索支援とライティング学習支援）の展開状況とその成果評価については、そろそろレビューする必要があると考えており、識者の着手に期待したい。

## 文献型学習支援だけでよいのか

文献の探索とそれを活用したライティングは、大学に

おける研究活動、学習活動の基本・基盤であると言う点については異論はなく、これからも強調すべきであると考えているが、一方、文献型学習支援という範囲に留まることなく、今ひとたび「アクティブ・ラーニング」の意義と必要性について見直す必要があると思い始めている。そもそもラーニング・コモンズが目指していた従来型の学習を補足・補完する「新しい学び」を忘れてはいけないのではないだろうか。

## 文献型学習を補足・補完する 「新しい学び」とは

それでは、文献型学習を補足・補完する「新しい学びの形」とはどういったものであろうか。

その「新しい学びの形」を知り、これから開発するためには、現在までの大学における学習・研究だけではなく、広く社会における「学び」を知り学ぶ必要があると考えている。

よってそのためには、大学以外の教育機関（小中高）における生徒の「学び」や公共図書館などにおける社会人の「学び」を知ることが重要であろう。その観点から、学校および学校図書館における学びの動向、社会人および公共図書館における学びの動向に一層注目してそれらを学ぶ必要があると考えている。私たちは「大学図書館」の支援機構であるが、これからは「学校図書館」や「公共図書館」の活動も視野に入れ、共に学び歩調を合わせて協力・協働する必要があると考えているので、関係の方々のご協力・ご支援をお願いしたい。

# IAAL の軌跡

## 2007-2023

- IAAL大学図書館業務実務能力認定試験開始
- オンラインナレッジデータベース運用開始
- 図書館総合展ブース出展



- 認定試験問題集2014年版刊行

- 認定試験 マイスター制度開始
- 「認定試験問題集」2016年版刊行
- 認定試験DVDシリーズ刊行  
情報サービス-文献提供



- 認定試験過去問題集(図書・雑誌・情サ)刊行
- 私大図書館協会 管理職研修を開催
- 「IAAL講習会」開始



- コロナ感染拡大により認定試験開催中止
- オンラインで研修を開催

### 〈主な研修実績〉

Problem Based (課題解決型) 研修  
和漢古典籍／ヘルスサイエンス  
RDA 3R／NCR2018／電子リソース  
学生協働／地域連携 など



IAALキャラクター  
「うちゅうた」

2007.6

- 東京都より認定
- 図書館総合展  
フォーラム開催
- 国立情報学研究所  
教育研修事業支援開始



2008

- 立教大学図書館目録業務委託 (2008-2016)
- NACSIS-CATアドバイザー業務開始
- ニュースレター刊行 (No. 1)

2009

2011

- 「私大図書館研修分科会」  
(現私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会)  
支援業務委託開始

2012

- 「RDA整合性調査」受託
- IAAL主催「RDA講習会」開催
- 「認定試験問題集」刊行 (2012年版)

2013

2014

- HPリニューアル
- ニュースレター休刊 (No.14)
- 5月事務所移転 (西池袋へ)
- 認定試験 二科目同時受験開始
- 第100回全国図書館大会に出展

2015

2016

- DVD「大学生のレポート作成法」Vol1.2刊行
- オンデマンド形式研修開始



2017

2018

- CAT2020再構築業務支援



2020

2022

- 認定試験 3年ぶりの認定試験開催・終了
- 私立大学図書館協会東地区部会  
研究部研修会リニューアルへの支援

2023

- ニュースレター復刊 (No.15)

⋮

# 大学図書館の学生用図書

IAAL前理事長 武蔵野大学名誉教授 小西 和信

大学図書館の蔵書といえば斯学の専門書や学術論文を揃えることが使命で、蔵書評価も学術文献の充実に置かれてきました。その学術文献は、この20数年で主流は電子ジャーナルやデータベース等に置き換わり、図書館資料費の大部分が電子資料の閲覧契約に費やされています。図書館での資料選択は、こうした高額な電子資料の契約をどうするかということにかかっています。しかし私は、主流の学術文献ではなく学生が利用する「学生用」蔵書のほうに関心を持っています。大学図書館は、学生が「読むべき」「読みたいくなる」「読みたい」本を収集し提供することにもっと積極的であるべきだと考えています。

公立図書館では、近年「YA」世代向けに加えて「青年期」向けコーナーを設けるところが増えています。青年期の世代が読むべき本が数百冊のコーナーで足りるとはとても思えませんが、この世代への読書支援が重要だと考えての取り組みなのです。大学図書館がこの公立図書館の取り組みに後れをとってはいけないと思います。なにしろ青年期は大学の専売特許なのですから。

公立図書館の選書には「新刊全点案内」などが使われることが多いようですが、大学図書館の学生用図書の選書では、通常の選書ツールに加えて、「ブックガイド」や「書評集」の活用が望ましいと思います。大学生が読むべき本や推薦本を採り上げたブックガイドやリストは数多く出されています。『大学新入生に薦める101冊の本 新版』（岩波書店2009年刊）はその代表例です。学生に一冊でも多くの本を読んでほしいという教員の熱い思いが伝わってきます。日本十進分類法の「019」に分類されるこれらの本には、白上謙一著『現

代の青春におくる挑発的読書論』（昭和出版1976年刊、のち『ほんの話』と改題）のような名作もあります。図書館職員の方々には、これらの棚の充実に尽力いただきたいと思います。学生用図書で特に配慮いただきたいのは外国書の翻訳物で、古典作品については可能なかぎり各種訳を揃えるべきでしょう。訳者の違いで苦手にしていた作品が愛読書に変わることもあります。

「選書」は、最近、条件を入れるとリストを作ってくれるAI選書システムも存在するようですが、その活用の是非も含めて、図書館職員の方々が主人公になるべきと思っています。「学校図書館図書整備5か年計画」で小中学校の図書購入予算が付けられたのは良いのですが、その57%しか使われていないという報道がありました。これは購入費が過剰配分されたせいではなく、選書する職員（学校司書、司書教諭等）が不足していたためだと考えられます。「選書」は図書館職員の専門的業務のひとつです。時間も能力もいる「総合的な」仕事で、日ごろからの研鑽が欠かせません。

図書館職員の見識と努力によって作られた魅力的な蔵書によって、読書習慣を持つ学生を育てていただきたいと願っています。そうした優れた図書館職員の研鑽にIAALは貢献できるのではないかと考えています。IAALは創立の原点に立ち返り、図書館職員の研修支援に一層邁進していくものと期待しております。

IAALではどうすれば大学図書館を元気づけられるかを考えて活動して参りましたが、私の力不足でIAALの皆様にも多くの課題を残すことになりました。理事長在任時は多くの皆様に支えていただきました。心から感謝し御礼申し上げます。引き続きIAALへのご協力、ご支援をお願い申し上げます。



現役を退いてからは、大学史編纂のお手伝いをしています。今いちばん時間を費やしているのは、「ブックガイドの書誌」作りで、米原万里『打ちめされるようなすごい本』などから著者お薦めの本をリストアップするのは楽しい作業です。

# 連携のための人的ネットワーク作りを

IAAL前副理事長 牛崎 進

NPO法人大学図書館支援機構(IAAL)の設立に関わった者の一人として、IAALの現役員や大学図書館職員の皆さまに心に留めておいていただきたいことを書いてみる。それは、図書館の運営とサービスに関わる職員や教員の持続的な人的ネットワーク作りである。

筆者の私立大学図書館での職員時代を振り返ると、20年以上の長きに及んで他大学の職員や図書館関連会社の担当者との交流があったことが、多様で深いレベルの図書館連携の推進に役立っていたように思う。2000年3月に発足した山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムの立ち上げも、多年に渡る交流のあった数名の大学図書館職員の企画から始まったものである。

昨今の職員の短期的な異動や専門職職員の配置減は、複数年を要する連携事業の企画や運用を協議する人的関係作りを困難にしている。大学図書館の協会・団体での戦略的かつ持続的な取り組みも難しい状況と聞く。こうした課題に応える形でIAALの大学図書館職員の研修事業が企画され、2022年度にリニューアルされた私立大学図書館協会東地区部会の研修事業の企画・運営支援を注目しているところである。しかし、研修の受講者も短期的に他部局への異動が想定されるので、図書館業務やサービスの質を維持し続けてゆくためには、大学経営層に提示できる何らかの図書館運営の達成目標ガイドラインのようなものが必要かもしれ

ない。大学の財政や人事当局に図書予算の確保や職員養成が必要であることを明確に認識してもらうためには、図書館が運用する授業と深く連携した情報リテラシー教育の実践とその効果が学内で広く共有されねばならない。そのためには学部や多くの教員も参加してもらうことで、学内での図書館認知度を上げる工夫も必要だ。IAALは設立当初から情報リテラシー教育支援に取り組んできたが、IAALの研修支援事業の一環としても引き続き活用していただきたいところである。

最後に、図書館の現場を支えている非正規スタッフについてである。国内の人手不足もあって時間単価は少しアップしているが、さらに待遇を改善するためには、大学当局に委託業務に関する指針を再検討してもらう必要がある。図書館業務だけ特段の配慮を望むわけにはいかないだろうから、業務単位で専門性の必要度やスタッフ研修の必要性を加味した委託仕様を作り、いい人材を確保し続けるための策として当局に説明する必要がある。そうすることで大学の教育研究支援や学生の情報リテラシー教育に資することができ、結果として大学のブランディングに貢献できることを実績を示しつつアピールしなければならない。

課題山積の折、大学図書館界の英知を集めて学生の成長支援につながるサービスを提供するためにも、人的ネットワーク作りが要請されていると言えるだろう。



画像は、我が家で2年前から育てている朝顔です。夏から最近まで咲いています。可憐な小さな花は1日しか持たずしぼみますが、たくさん咲いて種を量産させる作戦のようです。

IAAL役員を退き、悠々自適の年金生活になる筈でしたが、社会とのつながりが希薄になることに少しうらたえているところです。せめて孫娘たちの成長に関わりながら、大学図書館関係者の皆さまにエールを送れたらと思っています。

# RDAを学ぼう

IAAL研修委員 前副理事長 **高野 真理子**

## はじめに

NPO法人大学図書館支援機構（以下IAAL）初代理事長である上田修一先生（慶応義塾大学名誉教授）の言葉の中に、日本の目録を「ガラパゴス化」と呼ばれている部分があります\*1。私がRDAの普及を続けている原動力は、この上田先生の言葉と、NIIオープンハウスの立ち話で宮澤彰先生（国立情報学研究所名誉教授）からお聞きした「ジャーナリズム的な思考」という啓示です。立ち話で聞いた記憶では心許ないので、今回この原稿を書くために、どこかに記録がないか調べたところ、TP&Dフォーラム2009でその内容を講演されていたことを発見しました。以下、『NDL書誌情報ニュースレター』に参加報告\*2があったので引用します。

「今日までの目録は、日本目録規則（NCR）という本則があり、その下に細則があり、さらにその下に各種基準があるといったように、いわば法学的な枠組みで捉えられてきたが、それでは利用者に役立つ目録とはならない。今後は、利用者の知りたい情報を迅速かつ丁寧に提供するためにはどんな目録であるべきかという、ジャーナリズム的な思考で目録を捉え直す必要がある」、「目録の標準化は、カード目録においては必要性があったが、ウェブの世界ではあまり意味をなさない。各所で作られた目録をURIで結びつけられれば、目録の質にばらつきがあっても問題はない」

## Original RDAの時代から

さてIAALは、2012年12月から2014年5月まで全国各地でRDA講習会を行ってきました\*3。また、IAAL主催のRDA講習会以外にも、東北大学附属図書館（2013.12）、私立大学図書館協会東海地区協議会（2014.5）、八洲学園公開講座（2015.9）、国立大学九州地区講演会

（2017.3）、兵庫県大学図書館協議会（2017.11）、北海道地区私立大学図書館協議会（2018.7）、私立大学図書館協会東地区研究会（2018.11）と、各地の大学図書館の現場で働く方々にRDAの話をする機会をいただきました。そもそも何故IAALがRDAの普及を始めたかについては、『大学の図書館』33巻8号（2014.8）に書いています\*4。そして2017年から2018年の参加者を累計してみると、328名の方が「RDAと目録の書誌的宇宙」という講演を聞いてくださったこととなります。ですから、RDAとはResource Description and Accessのことだという説明は、もうここでは省略しましょう。

その後、IAALのRDA講習会は休止していましたが、世界では2017年のIFLA図書館参照モデル（IFLA Library Reference Model）を受けて、2017年からRDA 3Rプロジェクト（RDA Restructure, Redesign Project）が起こり、RDA toolkitが始動した2010年から丁度10年経った2020年12月に、新しいOfficial RDAがリリースされました。IHRDAはOriginal RDAと呼ばれ、2026年5月にWebサイトの削除のカウントダウンが始まります\*5。一方、国内ではFRBR（最終報告1997）とFRADの概念モデルを元に『日本目録規則』2018年版が刊行されました。ある程度普及したRDAに関する知識ですが、更新しなければならなくなっています。

## RDA 3Rへ

3R以降のRDAは、IHRDAでは未解決だった幾つもの問題に対して溜飲が下がる思いがします。例えば、雑誌は著作としてどう捉えるか、手稿や芸術作品でも著作・表現形・体現形・個別資料を作成するのか、ソネット・詩集や挿絵付きの絵本の4実体はどうか、Personには伝説上または架空の個人、人間以外の実体も含むなら、スヌーピーは本当にPersonなのか、等々。また、新RDAはIFLA LRMによる変更だけでなく、

どう運用するかは書誌作成コミュニティーが主体となって、Policy StatementやApplication Profileを設定できるように変わりました。目録には単一の正解があるのではなく、「各所で作られた目録をURIで結びつけられれば、目録の質にばらつきがあっても問題はない」\*2、RDAはそのデザイン（実体関連モデル）を示すのだと理解できるようになってきました。新RDAにはIRI（国際化リソース識別子）やMARC21, IFLA LRMへの参照が示されたことから、運用のあり方が旧RDAから大きく転換したことが分かります。

そして、各言語への翻訳やタームの言語展開が（日本語以外は）進み、Policy StatementがLC（米国議会図書館）、BL（大英図書館）、MLA（米国音楽図書館協会）、NLNZ（ニュージーランド国立図書館）と次々豊富になっていく様子を知ると、上田先生の「ガラパゴス化」の言葉が蘇ります。

## 難解さに立ち向かい 書誌的宇宙を想像してみよう

2021年秋にオンラインでIAAL主催の新RDAの講習会を実施したのですが、残念ながら参加者は全国からたったの14人でした。FRBRの概念モデルに基づいた『日本目録規則』2018年版が発行されたことで、「法学的な枠組み」ができ、「ジャーナリズム的思考」への転換が不要とされたと捉えるべきでしょうか。度々改訂される規則=法は採用できない、という理由で日本ではRDA 3Rはほとんど置いておかれているように思われます。また、大学図書館員は直接目録業務に携わることが減ってきているため、目録は実務的な関心が低くなっているかもしれませんし、RDAは難しいという印象をもたれている傾向もありそうです。

それでも、2022年度から私立大学図書館協会東地

区部会研究部のスキルアップ研修「RDA 3Rコース」をゼミ形式で行うと、世界標準を学びたいと5人が参加してくれました。『Introducing RDA : a guide to the basics after 3R』2<sup>nd</sup> ed.\*6をテキストとして解説しながら、新RDAを自分の言葉で説明できるようになるという目標を掲げ、2023年度も9名の参加者と共に学んでいます。ここから、日本にも少しずつRDAの理解者が育ってきていると感じます。研究者・学者としてではなく、実務者としてRDA R3を学ぶ機会がまだ必要なのではないかと考えています。

- \*1 上田修一. 目録の動向、位置づけ及び展望. 公開講演会「目録の現在とこれから」国立国会図書館、2009.2.5（スライド51）
- \*2 動向：ウェブ時代の目録のあり方とは？ — TP&Dフォーラム2009参加報告. 2. モデルと言語、目録とオントロジーの間：目録の将来像を考える（宮澤彰教授）. NDL書誌情報ニュースレター 2009.3（通号10号） p. 13
- \*3 IAALのRDA関係の活動.  
<https://www.iaal.jp/rda/index.shtml>（2023.10.9 access）
- \*4 高野真理子. ひとには聞けない… RDAの悩み？ 大学の図書館. 2014.8（33巻8号） p. 156-157
- \*5 “Countdown Clock for Original RDA Toolkit Set for May 2026” RDA news & information, May 23, 2023. <https://www.rdatoolkit.org/node/290>（2023.10.9 access）
- \*6 Chris Oliver. Introducing RDA : a guide to the basics after 3R. 2<sup>nd</sup> ed. ALA ed. ISBN: 978-0-8389-1908-8



2024年3月公開予定

IAAL図書館実務シリーズ・  
YouTubeチャンネル  
『RDA 3R入門』

詳細が決まり次第、  
HP等でご案内いたします。

IAALのRDA関係活動について  
詳しくはこちらから  
<https://www.iaal.jp/rda/index.shtml>



## 第17回2022年度通常総会

2023年7月29日に第17回2022年度通常総会が行われました。

- 2022年度（第16期）の活動及び財務状況について報告があり、承認されました。
- 小西和信理事長、牛崎進副理事長、高野真理子副理事長の3名の任期満了に伴う退任が承認されました。  
その後、理事の互選により、新理事長として岡田智佳子理事、新副理事長として米澤誠理事の就任が承認されました。

## 仲間を募集しています！

### ・ 会員募集

#### 正会員

年会費

5,000円

この法人の目的に賛同し、NPO社員として一緒に活動・運営に関与して下さる個人の方

#### 団体会員

年会費

30,000円 / 1口

この法人の目的に賛同し、協力していただける団体・法人

#### 賛助会員

年会費

無料

大学図書館支援機構の企画に積極的に参加しようという個人の方

### ・ 講師募集

IAALの研修事業では、講師を担当いただける方を募集しています。

ご自分の知識、経験、スキルをシェアしていただけませんか？  
自薦他薦を問いません。お気軽に事務局までご連絡ください。

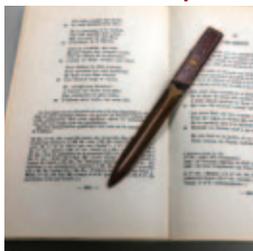
事務局連絡先 [info@iaal.jp](mailto:info@iaal.jp)



詳しくはこちらから <https://www.iaal.jp>



### > COVER story



小口の三方を切り落とさない製本方法のアンカット本とペーパーナイフ。折丁を切り離しながらの優雅な読書時間を残していきたいものです。

### 編集後記

No.15は復刊号ということで、テーマを決めずにお届けしました。

前号No.14から気が付けば約10年がたっていました。発行元としては「休刊」のつもりでしたが、NACSIS-CATの雑誌書誌データを見ると「PSTAT:c」すなわち「刊行中」のままでした。ずっとこのニュースレターを待っていてもらっていたような気がします（勘違い）。

IAALニュースレターは半年に1度の刊行頻度で続けていく予定です。次号No.16は2024年6月頃にお届けします。引き続きよろしくお願いたします。